

第3回アセスメントツール研究会(事例検討会) アンケート集計結果

H31.2.14

1. 所属について

医療機関	36人
学校	4人
障害福祉サービス事業所	31人
行政	10人
その他	9人

2. 職種について

医師（小児科）	9人
医師（精神科）	3人
医師（小児科・精神科以外）	1人
臨床心理士	23人
精神保健福祉士	7人
看護師	1人
保健師	0人
障害福祉サービス事業所従事者	24人
教育関係者	10人
一般事務員	0人
その他	14人

3. 内容について

1) アセスメントツール『MSPA』について

理解できた	12人
少し理解できた	61人
どちらでもない	10人
あまり理解できなかった	2人
理解できなかった	0人

2) 事例発表の内容について

理解できた	32人
少し理解できた	47人
どちらでもない	4人
あまり理解できなかった	1人
理解できなかった	0人

※ 内容についてのご意見、ご感想

- 基礎的な知識が無く、どちらともない感じになった。
- M S P A の講習会を受講していないと内容の理解が困難だと感じた。
- 事例が分かりやすかった。こだわりはなくなることはないが、困り感を減らせることはできる。
- M S P A は診断前でも使われることもあるので、医師以外の事例発表も聞きたい。
- 専門外だが、参考になりました。
- 幼児期の気づきはその子にとっては支援のスタートだと感じた。M S P A はそれ自体が支援という考え方に則り、有効活用されることを望む。
- 実際のフィードバックの面接の内容をもっとうかがいたいと思った。実際の支援・療育についてうかがいたいと感じた。
- 質問項目が具体的なものが多いようで、使用しやすいのではないかと感じた。どのように話を引き出していくかが要点となりそうで、理解や経験に左右されると思った。
- いろんな視点から障害について考えなければならない。
- 事例を詳しく伺うことで、スケールと結び付けて考えることができ、また、難しさも実感した。
- 医療と教育の連携がさらに大切だと感じた。
- 教育現場でももっと活用されるべきだと感じた。
- とても有意義な内容だった。
- 発達障害の知識ありきの検査のように感じた。
- 専門職の方の評定が必要とは思いますが、一般的に福祉に携わる人にも何かしらの指標があればと感じた。
- 具体的にどのような支援があるのかが知りたい。
- M S P A だけでなく、あわせてW I S C等の知識や聞き取りの際、支援者側のスキルによって変化してしまうのではないかと思った。
- M S P A の対象年齢等はあるのか聞きたい。
- M S P A は検査者の経験・能力によりかなりの差が生じるため、平準化が非常に難しいと感じる。
- 再検する必要性はないものなのか。また、アンケートの詳細をぜひ知りたいと思った。
- M S P A をどう支援に生かすのかという部分が気になっていた。事例を通すことで理解が深まった。
- M S P A についての理解が深まりましたが、加えて評価の難しさも感じた。
- 評定に関して、特に事例3で言語発達に4、5がついているが（5は有意味語の発語がないレベル）W I S Cでは言語理解が97出ているにもかかわらず、これほど高い評定がつくのか。評定に関していくつか分からない点があった。
- M S P A の必要性を感じることはできたが、面接者や回数によって評価が変わることから、面接をするスキル等を身に付けていくことが必要だと感じた。まずは、M S P A への理解を深めるところから行っていきたい。
- 初めて参加した。事例検討を聞いてM S P A の研修に参加したいと思った。
- M S P A のアセスメントツールを知らぬまま参加した。質問内容を知りたいと思った。
- 具体的な事例が提供され、効果や活用方法が分かった。
- 診断と支援に壁を感じた。

4. 内容が今後の自分の業務に活かせると感じたか

大いに活かせると感じた	24人
いくらか活かせると感じた	52人
ほとんど活かせないと感じた	1人

5. 『MSP A』等のアセスメントツールに期待すること

- 学校現場の者が評定した場合どうなるだろうと思う。病院へ行く人は全体的に少ないので、みんなが必ず行く学校でとれたらと思う。
- MSP Aそのものを勉強・理解しないと評価が難しいと感じた。
- 半構造化面接のツールとして活用できるものと期待している。
- 特性を理解するためのツールであるという意味が、少し理解できた。
- 発達障害の方がスムーズに活用できるように普及してほしい。
- MSP A研修等を北九州市や福岡市、福岡県のどちらかで行っていただけたらと思う。
- 大人の発達障害の方にもっと役立つツールになっていただければと思う。
- 実際につけてみることで、経験、症例の積み重ねが必要だと感じた。
- 検査を通して、親と状態を共通理解できること、親の気づきを高められることにMSP Aのメリットを強く感じた。
- 支援者として子どもの特性を具体的に知ることは大切なことだと思う。ただ、それをどう生かせばよいか、支援者同士をどうつないでいくのか、そのコーディネートをする人が必要だと思った。
- MSP A講習後のフォローがもっとあれば良いと感じた。
- 評価方法について、もう少し詳細に教えてほしい。
- 評価のガイドラインが分かりやすくばらつきが少なくなる。
- 成人期の事例が知りたい。
- 北九州で実施されていくには、専門スタッフの育成からと感じた。
- 質問紙が共有できないことが残念。
- 親、子、家庭の中、外でのアセスメントツールはどのように考えたらよいのか。
- 誰でも使いやすく、信頼性の高いツールになってほしい。
- 質の向上を期待すると、北九州市ではどのように活用されるのか、支援に繋がるのかが知りたい。
- MSP Aの利点は共有しやすさと聞いているが、支援にはより具体的なつながりができののかと感じた。その辺りも伝えられるようなやり方がセットになっていくと良いと思った。
- 検査ありきでなく、本人にとって有益なものとなるよう期待している。本人の全体像を総合的に把握し、それがより良い支援に繋がるようにMSP Aが使われることを期待している。

6. 「北九州市発達障害者支援アセスメントツール研究会」に関するご意見・ご感想

- 研究会の方向性・展開を期待する。
- これからも具体的な事例を紹介していただきたい。
- 毎月MSPAの研究を開催していただき、生きた情報となるように広げていただきたい。
- MSPAを利用し、特性がある程度わかった後、専門的な支援に繋がる場合は、療育機関が多いなどはあるのか。
- 支援に関わる方に役立つ取り組みの一つだと感じた。
- 発達障害の子ども達が社会の中で生きていけるよう支援が受けられるようになってほしい。
- この研究会の案内を継続的に広く周知していただきたい。知らない方も多いと思う。
- 成人ケースのMSPA評価の仕方、難しい点についても学びたい。
- MSPAはチャートして見れるので把握しやすい面もあるが、検査者のスキルによるところが大きい。様々な知識が必要であると思う。
- 「支援」ということに視点をおいた事例検討会をしてほしい。
- 極力負担の少ない形で、特性をより整理しやすくなるツールができるとうれしい。

7. その他、発達障害者支援全般に関するご意見・ご感想

- 北九州市内の各機関の連携につながることを期待する。
- もっと現場に近い方の事例などがあればと思う。
- ツールとしての認知が広がればと思う。
- 今回初めて参加した。このツールを理解し、支援につなげていきたい。
- 記録の形式を市で統一していただけたらと思う。
- いろいろな面で非常に勉強になった。
- 積極的に研修を受けていきたい。
- 様々な職種の方の意見を聞くことができた。
- ASDに加えてMDIやLGBTなどのダブル（トリプル）マイノリティーの方に対する支援や行政の取り組みなどについて知りたいと思う。
- 息子が発達障害でつばさにお世話になったことがある。周囲の理解のおかげで社会に出ることができた。つらい時期を乗り越えられるための支援に感謝している。
- 精神科では大人の発達障害に非常に困っている。行政主導でMSPAを利用して、支援や就労の体制を整えてほしい。
- 支援を繋げていくにも先方の顔が分かると安心する。研修をよりつなぎの機会にできたらと感じた。
- 支援はされているが、それが本当に本人の役に立っているのかと思うことがある。発達障害を理解し、知識を深め、本人の無理のない範囲で成長できる支援をお願いしたい。一人一人困り感は違うので、それを理解し、対応していけるといいと思う。支援者のスキルが上がることを期待する。MSPAは本人の特性を見るもので、それで支援が必要かどうかを見るものではないので他のアセスメントツールと併用して使うと、より困り感が見えやすくなると思う。
- 対人援助をする人自身も自分の特性を知ったうえで、対象者の特性を理解し支援の方法を考えていく必要があると思っている。
- 特性を理解したうえで、次にどうつなげるかが難しい。